

ウルトラマンマックス

奪われたマックススパーク

第3稿

脚本／小中千昭

TelePlay by Chiaki J. Konaka

2005／09／09

登場人物

トウマ・カイト
コイシカワ・ミズキ
コバ・ケンジロウ
シヨーン・ホワイト
エリー
ヒジカタ・シゲル

八潮（倒れていた男／台詞無し）

警官1

警官2

主婦

救護医師

イトイガワ技官……………UDF科学分析班

メデイカル班隊員

ピット・レオール

ピット・ノヴァー

エレキング（二体）

幼体エレキング（複数）

○住宅街／夜

住宅街に走る、サイレンを鳴らしたPC。

○アパート／部屋前／夜

近隣住民が、あるドアを取り巻きひそひそ話している。そこにやってくる制服警官。主婦、警官に

主婦「すごい声上げて暴れてたのよ！」

警官1、「判った」と制する。ノックする警官2。

警官2「八潮さん？ 警察です。八潮さんいらっしゃいますか

返答はない。警官2、1に目配せ。

警官1、ドアを力任せに開ける。

○八潮の部屋

入ってきた警官、目を剝く。

散らかった室内に倒れている八潮。

警官2「（無線に）えーこちら寺町12。通報のあったアパートに意識不明者一名……」

男の傍らには、大きな水槽が転倒しており――

警官1「何だこれは……」

ぴくりとも動かないでいる、幼体エレキング。

○ベースタイトン外観／翌日午後

N

「発見された男性は昏睡を続けており、何故エレキングの幼体を育てていたのかは不明だった。DASHは、再びエレキングが再び現れる事を警戒していた――」

○司令室

エリー、センシング機能をフルにし解析中。モニターには、二話でのエレキングの姿が映っている。

ヒジカタ「この怪獣はかつて、一人の女性によって育てられ、電気を食らう怪獣に成長した……」

エリー「科学解析ルームのイトイガワ技官からです」

と、モニタに映る技官。

モニタ内イトイガワ「隊長、エレキング幼体は、人工的に作られたバイオメカニックの様です」

カイト「(呟く)誰かが作った……」

ミズキ「――侵略者……」

ヒジカタ「引き続きかかってくれ。エリー、何か判ったか」

エリー「幼体エレキングと、前回出現したエレキングに共通する周波数の電磁波が、都内数カ所から検出されました。しかし非常に微弱で、場所の特定は困難です」

ショーン「(愕然)どれだけのエレキング、育てられてるんだ」
コバ「一斉にそいつらが巨大化したら――、我々DASH、いや、マックスがいたとしても防ぐ事は困難です」

ヒジカタ「――早期に幼体を発見する必要がある。エリー、エレキングの固有周波数データを解析」

エリー「はい」

ヒジカタ「ミズキ、カイトは地上から。コバ、ショーンは東京上空で探索」

隊員「了解！」

○ベースタイタン

飛び立つDASHバード2号。

○海底トンネル／DASHアルファ車内

硬い顔でステアリングを握るミズキ。カイト、横目でちらと見――

カイト「――こうやって、二人で出勤する事、多いよね(苦笑)」

ミズキ「(視線送らず硬い声)任務中よ。私語はしないで」

カイト「(え……)」

ミズキ、無言でダッシュボードを操作。ナビ画面に

周波数サーチ中のグラフィック。

○DASHバード2号コクピット

同じグラフィックがモニタに表示されている。
それをワッチしているション。操縦はコバ。

○司令室

モニタには、病院の医師が映っている。

ヒジカタ「収容された男性は未だ意識が戻らないんですか？」

モニタ内医師「（頷き）肉体に損傷は見当たらないんですが、衰弱が激しいですね。それと、ちょっと気になる事が……」

ヒジカタ「——それは？」

医師「ええ。患者の脳波をとってみたんですが、アルファ昏睡状態にあるんです」

ヒジカタ「アルファ昏睡？」

医師「アルファ波以外の、つまり通常の脳波が極めて弱った状態で、これは非常に珍しい脳波なんです」

ヒジカタ「……（思索）」

○都内

走るDASHアルファ。

その上空を飛んで行くDASHバード2号。

○アルファ車内

周波数モニタの画面を見つめていたカイト。しかし反応なく、嘆息。

カイト「（焦燥）くそ……。どこにいるんだ……」

無言で運転していたミズキ、車を止める。

カイト「？」

○路地

ミズキ、自販機で缶コーヒーを二つ買い、車から降りて待っていたカイトに一つ渡す。

カイト「——ありがとう……」

ミズキ「(ぼつりと)カイト隊員は、どうしてDASHに入りた
いって思ったの？」

カイト「え？——俺は……、何でだろう……。隊員募集が告知された時、俺は絶対に入らなきゃいけないって思ったんだ」
ミズキ「……」

カイト「(苦笑)なれる保証なんて何もなかったけどね。でも、俺が一番やり甲斐を感じる仕事だって思えた……。ミズキ隊員は、どうしてDASHに？」

ミズキ「——あたしは——、UDFで既にパイロットだったし、DASHに入れて当然、って思っていたかもしれない」

カイト「——」

ミズキ「思い上がってるっぽいでしょ。でもそうなの……。カイト隊員と最初逢った時、何でDASHに入る事に、そこまで拘ってるのか理解出来なかった……」

カイト「——(微笑)あの時の俺、無謀だったしね……」

ミズキ「——」

ミズキ、じっとカイトの目を見つめる。

カイト、ミズキの気持ち自分が自分に向いているのを察し、どぎまぎ。視線を逸らす。

と——、DASHアルファのサーチ画面がアラームと共に明滅。「Frequency Caught」

カイト「！ 近くにいる！」

ミズキ、DASHパッドを手に辺りを見回し——とある古いビルを見る。

ミズキ「あっちよ！」

○ビル室内

抽象的な空間に入ってくる、カイトとミズキ。

片手に防電磁ケージ、片手にDASHパッドを持つ
ミズキ。DASHパッドには強い反応が出ている。
ミズキ「(小声)カイト隊員、警戒して」

カイト、DASHライザーにスタンカートリッジを
素早く装填。

カイト「！」

部屋の奥にテーブルがあり、その上にはダイナーの
セットがされている。メイン・ディッシュの皿には幼
体エレキングが蠢いていた。

ミズキ「(嫌悪)何よこれ……」

幼体エレキングに見入るミズキ。幼体エレキングは
アンテナが回転している。

見入るミズキの顔から、徐々に表情が消えていく。

カイト「(警戒し見回し)ミズキ隊員、幼体をケージに早く——」
——、くすくすという女の笑い声が聞こえた。

銃を構え見回すカイト。

カイト「誰がいる！ 出て来い！」

ミズキは全く聞こえていない様子で、幼体に手を差
し伸ばしている。

カイト「ミズキ隊員！」

ミズキ、突如全身から力を失いその場に倒れる。

カイト「ミズキ……」

と！ カイトの耳につんざくノイズ。

カイト「うっ(耳を抑え)」

カイトを挟んで、二人の若い女が姿を見せる。

カイト「！ 誰だ！」

ピット・レオール「ウルトラマンマックス、この星から手を引い
て欲しいの」

カイト「(愕然)——お前達は……」

ピット・ノヴー「私達はピット星から来たのよ。あなただって
他の星から来て、勝手な事してるだけじゃない」

カイト「(憤怒)地球で何をしようとしている！」

ピット・レオール「(冷笑)人間のあなたには話してないの。そ
っか……、マックスは普段は自由じゃなかったんだ」

徐々にカイトに近づく二人のピット星人。

カイト「近づくよ、撃つ！」

ピット・ノヴー「(くくくく)撃てる？ あたしたちを」

美しい女達の姿の者を、カイトは撃てない。

カイト「くそおっつっつ！」

カイト、銃ではなく、腕で女たちに向かっていく。

しかしピット星人はカイトを上回る格闘能力で、カイトを痛めつける。

カイト「ぐわあっつ！」

二人、被さる様に立ち——、微笑み合っている。

カイトの脇には、気を失っているミズキ。

カイト「ミズキ——」

ピット・レオール、カイトに顔を近づけ——、カイトからマックススパークを取り出す。

カイト「やめろ！ それは——」

手を伸ばすカイトを、ノヴー、衝撃波で打ちつける。

カイト「がああっ！」

後頭部を打ちつけるカイト。

二人のピット、部屋から駆け出て行く。

カイト「くっ——」

必死に起き上がろうとしてミズキに手を差し伸ばす。

○DASHバード2号コクピット

司令室から着信。

コバ「こちらコバ」

ヒジカタ「(無線声)地上のカイトから救援要請が入った。座標を送るから向かってくれ」

コバ「了解！」

操縦桿を回し始めるコバ——、突如、それまで何も無かった虚空、それまで見えていなかった巨大な何かとニアミス。

コバ「なっ！」 今のは何だ！(緊急退避操作)
シヨーン「レーダーには何も映ってない！」

○基地廊下

寝台に乗せられ、運ばれていくミズキ隊員。
ケージを持ち、心配そうに見送るカイトの額からは、
少し血が滲んでいる。

○司令室／夕刻

カイトから報告を受け思案しているヒジカタ。

ヒジカタ「やはり侵略者か……」

カイト「しかし、単に電気を奪うだけの目的とは思えないんです。

何か——、何かもっと恐ろしい事を……」

エリー「隊長、イトイガワ技官からです」

画面内イトイガワ「ヒジカタ隊長、生きている幼体の解析はこれ

からなのですが、一つ判明した事があります」

ヒジカタ「？」

イトイガワ「エレキングのアンテナは、電波を吸収する為のもの

ですが、その周波数は人間の脳波と極めて近いんです」

ヒジカタ「(慄然)——なんだと……」

イトイガワ「人間の脳の活動は微弱な電気が支えています。エレ

キングは、人間の脳波を吸収しようとしているのかもしれない

れ——(背後に誰か入ってきたのに気づき) ああッッ！」

電光がイトイガワを包み、イトイガワ倒れる。

ヒジカタ「技官！」

と——、一瞬画面を過るミズキらしき女の姿。

カイト「！」

モニタ映像、ノイズにかき消える。

カイト、胸騒ぎに司令室を飛び出す。

○メデイカル・ルーム

飛び込んでくるカイト。

と、倒れている白衣のメデイカル班隊員。

カイト「… 大丈夫か？」

抱き起こすカイト。呻く隊員。

ミズキが寝ていた寝台が倒れ、その姿が消えている。

カイト「… ミズキ隊員は？」

メデイカル班隊員「急に…、暴れだして…」

カイト「（暗然）——」

と！ 基地全体に響く警報音。

カイト「（パッドに）隊長！ ミズキ隊員が！」

パッド内隊長「（深刻な顔）幼体エレキングを奪って、今基地か

らDASHアルファで逃げ出した」

カイト「（愕然）——（強い顔に）自分が行きます！」

○湾岸の道／夜

基地から猛然と走り出てくるDASHドゥカ。

カウル内のモニタには、DASHアルファの反応。

カイト「（モノ）俺が必ず連れ戻す！ 待っててくれ、ミズキ」

○司令部

メインモニタにワーニング。

エリー「エリアDF-544にエレキング出現」

都内に出現したエレキングの姿が映し出される。

ショーン「Oh, My…」

ヒジカタ「コバ、ショーン、出動！ エレキングの活動を阻止せ

よー！」

コバ+ショーン「了解！」

ヒジカタ「私もDASHマザーで出る」

エリー「DASHマザー、発進準備」

○基地／バード・カタパルト

DASHバード1、2発進シークエンス。

○都内

疾るDASHドゥカ。

斜め前方のビル越しに、エレキングの姿が見える。
カイト「(モノ)くそっ！ こんな時に！」

○DASHバード1号／2号コクピット

ショーン「コバ隊員！ ターゲットはあのアンテナだ！」

コバ「了解！ あいつの吐くプラズマに気をつけろ！」

○ビル街

フォーメーション・アタックをかける二機。
エレキング、口から弧状のプラズマを吐く。
かわす1号。

その隙にアンテナを狙う2号。

○2号コクピット

ショーン「Gotcha！」

が！ 突如キャノピー越しにエレキングの尻尾が2号を叩き落とさんと迫ってくる。

ショーン「Noooooo!!!!」

咄嗟に操縦桿を引くショーン。

○ビル街

すんでで激突を免れ、急上昇する2号。

○都内(場所適宜)

アルファが乗り捨てられている。ズキ、車からやや

離れたところに立ち、幼体の長い尾を首に巻きつかせ、愛でている。

バイクを止め、駆け寄っていくカイト。

カイト「ミズキ^二」

ミズキは見向きもしない。

カイト、近づこうとすると――、

幼体エレキング、小さいプラズマを吐きだす。

カイト「くっっ！」

○DASHバード1／2号コクピット

ショーン+コバ「おおおおおっっっっ^{二二二二}」

○ビル街

二機のバード、きりもみの様にエレキングに攻撃。
エレキングのアンテナ、片方が破損。

コバ「(オフ)おっしやあああ！ もう片方行くぜ！」

と^二 1号の真上から凄まじい火球が落ち、1号の翼を破砕！

○1／2号コクピット

コバ「うああああっっっ^二」

ショーン「What Happened!? コバ隊員^二」

○ビル街

1号、煙を上げながら降下していく。

○1号コクピット

ヒジカタ「(無線声)コバ！ 脱出しろ^二」

コバ「きしょう!!」

コバ、イジェクト操作。

○DASHマザーコクピット

ヒジカタ、上空を見るが何も見えない。

ヒジカタ「見えない侵略者がいる……」

エリー「(無線声)隊長、エリアFT-231にもう一体、エレ

キングが出現しました」

ヒジカタ「(苦渋)——マザーはそちらへ向かう。ショーン、こ

いつを何が何でも仕留めろ」

ショーン「(無線声)了解！」

○都内

立ち上がるカイト——。

カイト「ミズキ——、君は強い筈だ——」

ミズキ、カイトをぼうっと見つめる。

カイト、ダッシュし、幼体エレキングをミズキから

奪う。

カイト「だあああつつつ!!」

ミズキ「——!!」

幼体エレキング、尾をカイトの首に巻き付ける。

カイトの全身に走る電光。

カイト「(苦悶)がああつつつ!!—— そっ、そうだっ——。俺

に憑りつけ!俺の脳波を食うんだ!」

ミズキ「——(我に返り)カイト隊員!! あたし何で……」

カイト「(激しい苦痛に堪えつつ笑みを浮かべ)ミズキ——」

ミズキ、カイトに近づこうとする。

カイト「近づくな!!」

ミズキ「!!」

カイト「こいつは人間の脳波を食い尽くす」

ミズキ「ええっ!!——」

と、背後の爆発音に振り向くミズキ。

エレキングと戦うダッシュマザーが見える。

カイト「隊長達が戦っている……。早く……。君も復帰するんだ」
ミズキ「（被りを振り）カイト隊員があたしを助けてくれた！」

今はあたしがカイト隊員を助けなきゃ」

カイト「（不敵に笑み）——俺は——、大丈夫だ。俺は探さなきゃならないものがある……」

ミズキ「……」

カイトは必死に自分が精神力で打ち勝つ事を、ミズキに示そうとしている。

カイト「君は、ちゃんとテストに合格したDASHの隊員なんだろう……。君には今、しなきゃならない事があるんだ……」

ミズキ「——」

○2号ノマザーコクピット

ショーン「うおおおおおっっっっ」

ヒジカタ「——（静かに怒りを湛え）——」

○都内

頭上の闘いを見上げていたミズキ——、パッドに

ミズキ「エリー、バード3をオートで出して！」

エリー「（無線声）了解。DASHバード3をオートパイロットで発進させます」

カイト「——（頷く）」

ミズキ「カイト……」

ミズキ、強い顔になってバイクまで走り、跨がって走り出す。

幼体エレキングのアンテナの回転早まり、再び全身に光が走って苦しむカイト。

カイト「——（モノ）俺の全てを吸い尽くすつもりか……」

カイトの首に巻きつく幼体の尾。

だが——、カイトは強靱な意志の光を目に浮かべ、

幼体を強く握る。

カイト「マックスになれなくなつて——、俺は、俺だあああッ！」
カイトの軀からオーラのように光が浮かび——、幼体のアンテナにその光が逆流していく。

カイト「だあああああつっつっつっつッ！」

幼体、激しく身を振らせ、煙を上げ始める。

幼体のアンテナから発する光線は、天空へ伸び——

○東京上空

地上から伸びた光線、虚空に焦点を結ぶ。

と——、不可視状態だったピット星人円盤が、不安定な態勢で姿を見せ始めた。

○司令室

エリー「東京上空に侵略者と思われる飛行物体を確認」

○DASHマザー／コクピット

ヒジカタ「この星は俺たちが守っているんだ！」

ヒジカタ、ミサイル発射操作。

○東京上空

DASHマザーから一斉に放たれる大型ミサイル。円盤、一部を破壊され、内部構造が覗く。が、マザーに向け、プラズマ火球が放たれた。

○DASHマザー／コクピット

ヒジカタ「ぬうううっつ！（渾身の力で操縦桿を切る）」

○ビルの部屋——だった場所

そこはピット円盤の内部だった。

激しい振動。そして、ディナー・セットのテーブルには多くの幼体の死体がぼうつ、と出現していく。

ピット・レオール「子どもたちが」

ピット・ノヴー「脳波を逆流させられたのよ」人間のくせに

テーブルには、マックススパークも置かれていた。

○都内

カイトが組み伏せていた幼体、光と共に消失していく。カイト、立ち上がって空を見上げる。

カイト「——(覚悟)」

アルファ車内に素早く乗り込み、発進させるカイト。

猛然と速度を上げ——、アルファ、飛行形態に。

空に向かって飛翔していくDASHアルファ。

○ビル街

一本角のエレキング、ショーンの2号を執拗に攻撃。

○2号コクピット

ショーン「(オフ) くそ！ 逃げきれないいいいい」

○ビル街

と！ 太陽を背に飛来し、エレキングの角を攻撃する機影が。

○2号コクピット

ショーン「!?——ミスキ！ I Love You!」

○3号コクピット

ミズキ「(ニヤ) ショーン! 角に集中攻撃よ!」
ショーン「(オフ/無線) Ai'right!」

○ビル街

両サイドから挟み撃ちでエレキングを攻撃するバード二機。

遂に! エレキング一体が崩れる。

ショーン「(オフ/無線) Yhaaaaaahhhhoooooo!!!!」

○円盤内

ピット・ノヴー「下等な人間のくせに!!」

と! 激しい振動に足をぐらつかせる。

○東京上空

攻撃をしながらDASHアルファが円盤に接近。

○車内

カイト「!!」

円盤、こちらに向けて火球を放つのが見えた!

カイト、ドアを開き、跳躍!

○東京上空

火球に蒸発させられるDASHアルファ。

カイト「だああああっっ!」

円盤の上面に降下していくカイト——、円盤に向けDASHライザーの榴弾を連続射撃!!

○円盤内

本来の言語でけたたましく会話するピット星人。
ミズキの3号に向け、火球を放つ。

○3号コクピット

ミズキ「ニ」

すんでで火球をかわすが――、

○東京上空

翼の端を破碎され、不安定になる3号。

○円盤内

階段を降りてくるカイト。

ピット星人、本来の昆虫の如き顔に変容し、カイトに襲いかかる。

しかし、今はカイトも素早い！

レーザー・シリンダーに素早く交換。

レオール、そしてノヴーを次々と撃ち倒す。

○東京上空

姿勢を大きく揺らがせ、降下し始める円盤。

○円盤内

カイト、テーブル上のマックス・スパークを手にし、それを掲げる。

○変身シークエンス

カイト、ウルトラマンマックスへ。

○東京上空

爆発する円盤——。

その粉塵の中から現れる、ウルトラマンマックス。

○3号コクピット

必死に機を安定させようとしていたミズキ——、

ミズキ「マックス——」

マックス、ミズキ機に近づき——、そっと機体を手にとる。

キャノピー越しに見えるマックスの顔——。

ミズキ「——（何かを感じる）」

○ビル街

飛来したマックス、1号をそっと地上に降ろし——
暴れているエレキングに立ち向かう。

ミズキ「——」

マックス対エレキング。

もうエレキングはマックスの敵ではない。

プラズマを吐くも、全てマックスは腕で弾き飛ばし、
そのままエレキング目掛け突き進み——

マクシウムソードを展開。

エレキングを左右真つ二つに断ち切った！
蒸発しゆくエレキング。

○地上

不時着している1号の傍らに立ち、飛び去っていく
マックスを見つめているミズキ——。

ミズキ「——マックスって……」

と——、遠く後方からの声。

カイト「(オフ) おおおおおおいしい！」

ミズキ、振り向く。

カイトがこちらに向かって走ってくる。

ミズキ「——カイト……」

カイト、笑顔でミズキに真っ直ぐ走ってくる。

ミズキ「——」 (微笑) カイト隊員^二」

ミズキもカイトに向かって走り出そうとして——

以下次回